

みなさんいかがお過ごしですか。今宮高校国語科の小山秀樹です。

学校設定科目「私達が立っている場所」は 2000 年の開講以来、今年 25 年目を迎えます。現代の課題をつかむことばを養い、養ったことばで課題を超えて生き抜く力をつけるこの授業を私はライフワークとしてこれまで取り組んできました。受講者のみなさんの率直で真摯な学習態度や意見に支えられ、また励まされて教材の精選と授業方法の工夫や更新、改善を現在も続けています。

たかが 25 年、されど 25 年。「私達が立っている場所」を受講した総合学科 3 期生から 26 期生 755 名の今宮高校生の学びは、確実で、誠実で、未来への希望が感じられた本当にすばらしいものでした。図書館や教室での Q&A や発表に対しての私の突っ込みに対するみなさんの鋭い切り返しなど、いくつもの名場面や珍場面（笑）が生まれ、その場面がその後の私やみなさんにとって記憶に残ることばの蓄積になったように思います。

この 25 年の間、「私達が立っている場所」は、今宮高校を代表する国語科の学校設定科目としてオープンスクールはもちろん、大阪内外の研究会や研究大会でみなさんは発表することにもなりました。また、授業をのべ 500 名を越える先生方に参観いただいたことをはじめとして、国語教育の専門誌や論文、新聞にもとり上げられたり、「高等学校 真正の学び、授業の深み」（石井英真編著 筑摩書房）のなかでこれからの真正（ほんもの）の授業として掲載されたりもしました。また、扱った教材の「である」と「する」こと（丸山真男）、文学のふるさと（坂口安吾）は、私の執筆で検定現代文教科書（数研出版）に掲載されることにもなりました。これらはすべて、みなさんの学びの結晶であることは間違いないことです。

みなさんのすばらしい学びが描いた「私達が立っている場所」が 25 年を迎えるにあたり、私は現在、あらためて責任と使命を感じています。10 代後半のみなさんのことばの学びは、その後のみなさんの人生をどう形づくることができたのか、またできなかったのか。25 年を迎えて私が感じることは、みなさんから声をあつめ、「私達」の学びを検証・共有することです。みなさんからいただいた大切な声を集めて学びの検証・共有することは、みなさんにとって新しい学びを創造する契機となるに違いありません。また、今後も授業を続けていく私にとってはかけがえのない指針と勇気になります。「私達が立っている場所」の授業の学びは、卒業後、現在までの生活のなかで生きたことがあったでしょうか。役立ったと感じられたことがあったでしょうか。**アンケートとみなさんの声・文章の募集という形でみなさんに投げかけさせていただきます。**

お忙しいなか恐縮ですが、回答にご協力ください。よろしくお願いします。

< ご挨拶とお願い動画編 >

<https://youtu.be/0kX1I7EsYfo?si=LOW56MsSYjeG0cEl>



< アンケート回答はこちらから >

<https://forms.gle/GQ3s1ch2ytUeDJKJ9>



特別動画

「私達が立っている場所」は、こんな授業だった！！

1 私達総集編「主体としての人間のゆくえ2023」
「である」と「する」こと（丸山真男）、「文学のふるさと」（坂口安吾）、「歴史としての科学」（村上陽一郎）の3つの教材を教材のことばでつなげ、人間について考察しました。

<https://youtu.be/yPZ6xCXssYs?si=Ykq1clkH8egqGXa2>



2 「である」と「する」こと第1段落のヒント
新型コロナウイルスの影響でリモート授業になったとき、「私達」の定番教材「である」と「する」ことのヒントを、youtubeにあげました。

<https://youtu.be/LhEo2owwVNc?si=m48tlqwaFpvcq6EK>

